

# Investigation of occurrence of osteonecrosis of the femoral head after increasing corticosteroids in patients with recurring systemic lupus erythematosus

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2010-02-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 関谷, 文男 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001034">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001034</a>

順天堂大学 博士（医学）

氏名 関谷 文男

論文題目 Investigation of occurrence of osteonecrosis of the femoral head after increasing corticosteroids in patients with recurring systemic lupus erythematosus  
(全身性エリテマトーデス再燃症例におけるステロイド増量後の大腿骨頭壊死症発生についての解析)

#### 論文内容の要旨

特発性の大腿骨頭壊死症症例(ON)の半数以上はステロイドの投与歴を有し、特に全身性エリテマトーデス(SLE)に多く発生することが知られている。しかし、これまでの報告では、ステロイド初回投与時の骨壊死発生の検討がほとんどであり、SLE再燃時の報告は検索した限りみられない。

そこで当科に入院しステロイドを維持量から中～大量に増量されたSLE再燃症例17例を対象に、MRI検査を用い大腿骨頭壊死が発生するか経過を一年間以上追跡し、患者背景やステロイド投与前の血液検査値、投与前後の血清脂質値の変化、ステロイド投与量など発生群と非発生群について比較検討を行った。

ONは5例(29.4%)に発生し、ステロイド初回投与時のみならず、SLE再燃に対するステロイド増量症例においても骨壊死は発生することが判明した。ON群は非ON群に比しステロイド増量後早期に血清脂質値、特に血清総コレステロール値(ステロイド増量後最高値、およびその上昇率： $P < 0.05$ )の急激な上昇を認めた。

これらの結果より、血清脂質値上昇が骨壊死発生の誘因の一つである可能性が示唆された。また、ステロイド増量時のSLE disease activity index 2000(SLEDAI-2K)が発生群において有意に高スコア( $P < 0.05$ )であり、SLEの疾患活動性自体が骨壊死発生のリスクとなることが示唆された。